



プラトニックなMAD姉弟



あいね



目次

プラトニックな MAD 姉弟	1
----------------------	---

プラトニックな MAD 姉弟

私、灰原アンナは義理の弟、
昂といつものようにカードゲームに興じていた。
「ツードロー！ マナチャージ！ ブラック・サクリファイス召喚！
相手モンスター1対のコントロールをエンドフェイズまで得る」
「トラップカード発動！ 血の代償！
ライフを1000ポイント払わなければその効果は無効になる！！」
10分後...
「やっぱりお姉ちゃん強い.....。
いくらデッキを組み直しても勝てない.....。
何でお姉ちゃんはそんなに強いのか？」
「ちゃんと、主に依り頼んでデッキを作って戦ってるからだよ。
昂もイエス様を信じて、戦うといいよ。」
「ぼ、僕は、その.....。」
また、反抗して！ しょうがないなあ。
「あー、何でお姉ちゃんの言うこと聞けないかなあ。
昂もいい子なんだからお姉ちゃんの言うこと聞かないとダメだぞ☆」
「.....」
あー、すねちゃった、可愛いww
そういう時は.....
「ずっとお姉ちゃんと一緒にいようね。約束だよ」
「あ、あ、お姉ちゃん.....。」
機嫌が治ったみたい。明日のこと考えなきゃ！
「明日はいよいよ、国会議事堂爆破計画決行日！
消費税を上げられてたまるか！ 国民のために！
ダンプカーで自爆してしまえばいい。
昂も一緒にの車に乗って、突っ込むの！
そして、天国で一緒に.....。」
「でも、お姉ちゃん、そんなことして本当に天国に
行けるのかなあ？」
「！！ なんですって！！ え、えと.....。
ちょ、ちょっと待って、分かんない.....。」

ど、どうしよう、怖くなっちゃった……。」
「お母さんに相談したほうがいいんじゃない？
お姉ちゃんと離れ離れになるのはいやだし。」
「な、なんですって！！ 早くお母さんのところへ……！！」
お母さんは台所にいた。
いつものようにイタリアン創作料理に夢中だった。
私は混乱しながらもお母さんに白状した。
「お母さん、ごめんなさい……私、大変なことしちゃった……。」
「どうしたのです？ 言ってごらんなさい。」
「消費税UPに反対して、
国会議事堂に自爆特攻する気になってたの……。」
これは許されないと思って……。
お母さん、ごめんなさい……。」
「神様に謝りなさい。
＜信仰による祈りは病む人を回復させます。
主はその人を立たせてくださいます。
また、もしその人が罪を犯していたなら、
その罪は許されます。＞ヤコブ5：15
大丈夫です、アンナちゃんは許されていますよ。」
私の心の動揺は、それで収まらなかった。
「でも、でもでも、もう戦闘員を雇っちゃって
みんなで明日、自爆しに行くの！ どうしよう……。」
「それは困りましたね。でも大丈夫。あなたは強いから
きっと、この状況を切り抜けられます。お母さんも
祈っていますから。安心して眠りなさい……。」
私は弟のもとに飛び込んでいき……、
「お母さん、許してくれたよ！ よかったあ……。」
でも戦闘員どうしよう……。」
「電話すればいいんじゃない？ きっと分かってくれるよ。」
「よしっ！ 電話してくる。」
私は戦闘隊長のもとに電話をかけた。
「あの愛国精神党の代表の灰原アンナですが、
隊長さんのお宅でしょうか？」
「おっ、アンナちゃんかい？ どうしたんだい、こんな遅く。」
「明日の計画はなかったことにしようと思って……。」
「てやんでえ、バーロー、生活がかかっているんだ！
このまま引き下がるかよ。明日は決行だ！
党の代表は俺がするからな！ 2度と顔みせんな、チビ！！」
「！！ チ、チビですってえええ！！ もういいです、切ります。」
ガチャンッ！！

私は泣きながら、弟のもとに行った。
「ダ、ダメだった……明日は決行だって……。
こうなったら全力で止めるしかない。」
「お姉ちゃんなら大丈夫だよ、強いし。」
「昴……ありがとう……。」
今なら言えなかったことが言えるかもしれない。
勇気を出して……！！
「あの、昴……言いたいことがあるんだけど……。」
「何、お姉ちゃん？」
「わ、私、昴のことが……そ、その……」
ダ、ダメだ、言葉が出ない……！
ああ神様どうしよう……！！
「僕もお姉ちゃんのこと好きだよ。」
え？ そうなの？
「違うの！ だから、そういう意味じゃ……」
「僕もお姉ちゃんと結ばれたいと思ってるよ……。」
「昴……！！！！」
なんと両思い！！ やったあああああ！
「じゃあ、結婚！ 結婚しよ！ ねえ？」
「姉弟でいいのかな？ いくら義理とはいえ」
「はっ！ 申命記27章22節！
血がつながってなくてもいけない気が……どうしよう……。」
「ゆっくり考えていくしかないね。」
「そうね。二人の愛の行く末を考え抜くしかないね。
昴……今日は一緒に寝よ。」
「分かった、そうしよう。」
久しぶりに私は昴と同じ布団で寝た。

☆ ☆ ☆

翌日。
「ふあああ、いい目覚め！！ って」
昴が私の腕をつかんで離さない。かわいいけど。
「ううん、襲っちゃいけないのよね。悩ましいわ」
「あ、お姉ちゃん……。」
「あ、おはよ。よく寝れた？」
「よく寝れたよ。それより今日は……」
「そう、何とかして、クーデターを止めないと！！
行くよ、昴！！」
「ラジャ。お姉ちゃんは死んでも守る！！」

私たちは国会議事堂に向かった。

☆ ☆ ☆

国会議事堂前。

私は必死に祈っていた。

この私が計画したクーデターを止めるために！！

そして8：30、ダンプカーが次々にやって来た。

みんなダイナマイトをたくさん積んでいる。

私は再度、主に祈った。

「愛する天のお父様、どうか私に力を下さい。

この暴走を止める力を。」

直後、私の髪は逆巻き、水色に変わり、目の色も水色になった。

「くわたしは、あなたの行いを知っている。

あなたは、冷たくもなく、熱くもない。

わたしはむしろ、あなたが冷たいか、熱いかであってほしい。

>黙示録3：15

私は冷たいを選び取ります。冷徹アンナとして……！！」

私は手をかざし、叫んだ！

「主の御名によって、ICE STREAM！！！！」

私は力を振り絞って、ダンプカーを凍らせた。

霊的な氷に閉ざされるダンプカー。

その数は100台に及んだ。

「どう、私の力は……」

ドサッ。

私は精神力を使い果たし、アスファルトに身を沈めた。

「お姉ちゃん……！！」

「大丈夫、ちょっと休めば回復するから。」

「まったく、なんてことしてくれんだ、クソガキども！！」

「！！ て、てめえは！！」

「おっ、なんだよ、文句あんのかよ。

愛国精神党の斎藤和月様だよ。まったく、計画をぶち壊しにしがって。

命で償ってもらおうぞ、ゴラァ！！」

「てめえ、一人だけ高みの見物してたくせに、

そんなこと言えた義理かよ。お姉ちゃんには触らせない！！」

「はっ！ 威勢のいいこと言ってくれらあ。

二人とも一緒にあの世へ送ってやるよ。覚悟しな！！」

「ちっ……こいつを使う時が来たようだけ……。」

「昂！ こういう時は主に依り頼んで！ イエス様を信じて！！

お願い！！」
昂は電動ドリルを取りだした。
ヴィィィン！！
「てめえ、ハチの巣にしてやんよお！！」
「こいつ、物騒なものを。しかし、銃には勝てないだろう。
目にももの見せてくれる！！」
私は力の限り叫んだ！
「＜アーメン。賛美と栄光と知恵と感謝と誉れと力と勢いが、
永遠に私たちの神にあるように。アーメン。＞
黙示録7：12 昂、信じて！！」
昂は全力で特攻した。だが…………。
「勝てないって言っただろ。」
ズドン！ 昂の肩に命中した。
「昂……！！！！」
私は泣いていた。このままではまずい。
何とか起き上がらないと負けてしまう…………！！！！
「ぐっ…………」
昂はうずくまった。
そこに和月の足が踏みにじる。
「てめえはじっくり殺してやるからな。覚悟しろよな。」

☆ ☆ ☆

てめえ、ざけんな！！ イエス様を信じて…………。
お姉ちゃんがいつものように言ってたっけ。
お姉ちゃんのこと好きなのに、お姉ちゃんとだけ、
一緒にいたかったから…………。
分かった、信じる、信じます！！

☆ ☆ ☆

そして、
昂はクリスチャンとなった。
聖霊が下って、力を得た。
片手に霊の剣をひっさげて。
「てめえ、なんだ、この光は…………」
「＜信仰は望んでいる事がらを保証し、
目に見えないものを確信させるものです。＞ヘブライ11：1
神光霊波斬！！！！！！！！」
「ぎゃわああああん、ごめんなざいいいい！！！！

」

和月は悪しき心を粉々にされた。

「昂！！ あなた、どこで御言葉を……………！？」

「いつも、お姉ちゃんが口にしてたから。」

「！！ 何ということでしょう。主よ、感謝します。」

二人は騒ぎにならないうちに家路についた。

☆ ☆ ☆

数日後。

「ねえねえ、ドレスにあってる？」

「すごく……………似合ってる。」

私たちは、誓婚式を行うことにした。

私たちは霊的夫婦になるのだ！！

「約束の言葉。

病めるときも健やかなるときも、うれしいときも

悲しいときも、豊かなときも欠落のときも、

死が二人を分かとうとしても、私は昂のことが大好きです。

アーメン。」

「僕もお姉ちゃんのが大好きです。アーメン。」

昂は私のおでこにキスをした。

私たちの関係は一生プラトニックかもしれない。

今、私にできることは、

最後の一線を超えることを主に許してもらえるように

祈ることだけであった。

完——

あとがき

ああああ、いつもの感じ。

ピンチになって、イエス様を信じて、

ズバーッとやっちゃう流れ。

まあ、いいかなあと思った。

お読みくださりありがとうございます。

祝福がありますように。お祈りいたします。

アーメン。

愛根

PS 和月という名前の方がいたらごめんなさい！！

私たちは神さまの子どもなので、絶対に大丈夫ということです。

私たちのいのちは、主の御手の中にあるのですから☆

アーメン。

使用聖書 新改訳第3版

プラトニックなMAD姉弟

著 あいね

制作 Puboo
発行所 デザインエッグ株式会社
